



2019年7月発行 No. 117

発行者 田森 茂基

編集者 森 洋子

発行所 070-0058 旭川市8条西1丁目1-11

旭川バプテスト教会内

http://hokkaidobap.jimbo.com pw: jbc1947

巻頭言 「全日本にキリストの光を」

田森 茂基 (北海道連合会長、旭川教会牧師)

さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。イエスは言われた。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

(使徒言行録1章6～8節／新共同訳)

1947年4月に、日本基督教団を脱退した16の教会によって「日本バプテスト連盟」が結成されてから、72年が経過しました。また、後々に「日本バプテスト連盟」の“目標標語”となって行く『全日本にキリストの光を』という言葉が、第7回連盟総会(1953年)において初めて掲げられた時から数えると、66年経ったこととなります。ちなみに、私たちが連なっている「北海道バプテスト地方連合」は、1952年に札幌バプテスト教会の伝道が開始された事に端を発し、1965年12月1日に9つの教会(伝道所含む)によって結成され、現在に至っています。

「日本バプテスト連盟」の歴史を振り返る時、忘れずに覚えたい事柄の一つは、アメリカ「南部バプテスト連盟(Southern Baptist Convention)」に連なる諸教会の兄弟姉妹から多額の支援献金を寄せられたことでもあります。この支援により、日本各地で教会が立てられ、その歩みが支えられてきました。私たち北海道連合の歩みも、この支えがあって今日があります。この支援が推進力となって「日本バプテスト連盟」の教会を生み出す力は躍動し

16だった教会が、319まで増えました(2019年6月現在の加盟「教会・伝道所」)。この事実には、私は支援に対する感謝と共に、先人達の情熱的な信仰と、その信仰を顧みて下さった主の祝福を見出します。

しかし、今その事と併せて加盟教会の皆で共有したいのは、現在「日本バプテスト連盟」は存続の危機を迎えているという事実であります。連盟の教勢報告や総会資料から見て取れるように、協力伝道献金は年々減少し続けています。あくまでも可能性の範疇を越えませんが、2023年頃には財政的な危機に陥るとの予測が為されています。その場合、連盟の事務所機能が停止し、印刷物や出版物の発信、更に「全国少年少女大会」といった各種プログラムの展開がストップすることでしょう。そのような事態の実現を避ける為に、いま様々な計画が進められています。昨年度、私たち北海道連合でも行われた「協力伝道会議」もその一つであり、2021年の連盟総会において新体制を決議しスタートさせる為の動きが、これからも様々な形で実施されていく事になります。

その備えとして、私たち皆でもう一度、確認したいことがあります。それは、「連盟」とは、埼玉県にある連盟事務所および、そこで働いておられる職員を指す訳でも、連盟総会で選んでいる理事会を指す訳でもなく、加盟している私たち「教会」であり、加盟教会に連なっている「わたしたち」であるという事です。表現を変えるならば、「わたしたち」は『全日本にキリストの光を』というミッションを共に担う為に、「日本バプテスト連盟」を結成していると言う事です。つまり、連盟の維持・存続が「わたしたち」の目的ではなく、福音宣教こそが「わたしたち」の使命であり、その為の必要として「日本バプテスト連盟」を支えているのです。だから、皆で「連盟」のことを、“わたし”の事として覚え、祈って行きたいと願うのです。

■第30回全国小羊会キャンプ・リーダー 研修会報告 於：天城山荘

今回、帯広教会から2人の新5年生が参加することになり、引率者として参加させていただきました。道内から、札幌7人、函館1人が参加しました。

全体では、148人（子供82、大人29、スタッフ29、託児スタッフ8）の参加です。

小羊会キャンプのテーマは、「一人一人が大切！～わたしにできる世界伝道」、リーダー研修会は、「一人一人が大切！～豊かな小羊会活動」です。

聖書「その一匹のことを喜ぶだろう」（マタイ18：13より）でした。

讃美指導された山下真実牧師の作詞作曲による「まいごの羊」がテーマソングとして集会ごとに讃美されました。子どもの聖歌隊も結成され、心洗われるような讃美の歌声でした。

キャンプの講師である、坂東資朗先生（西南学院中高聖書科教師・宗教主任）は、4回にわたって、ご自身の身に起こったこと、おにぎりの会で経験したこと、教師をしていて考えていること、それらの出来事の中にあつた主の招きを、具体的に教えてくれました。

「イエス様が自分をさがし出してください！」、その聖書の言葉にいつも支えられて今まで生きて来たので、「一人一人が、ほかの人と交換できない命を生きている、一人一

■追悼～野村宏子先生～

札幌教会 真部 恵子■

野村先生との出会いは、私が中学生になって初めて大人の礼拝に出席した時でした。宣教師のフーバー先生の通訳をし、会衆讃美と聖歌隊の指揮をされていました。「何故この

先生はこんなにも自信に満ち、生き生きと輝いていらっしやるのだろうか？」と圧倒され

2019年3月27日(水)～29日(金)

帯広バプテスト・キリスト教会 西島 邦子■

人を愛してくださる神様の心を知って、一人一人を大切にすると、語っていただきました。

講師のお話を十分聞き取ることが難しかった子供たちも、「まいごの羊」の讃美歌を歌う度に、一人一人をさがし出してくださいイエス様が心に刻まれていくようにと祈りました。

「わくわく世界伝道」というプログラムでは、派遣先の航空チケットをもらい、グループごとに派遣されている宣教師の働きについて学び、祈りの課題をしおりにし、宣教師に送るビデオレター作りをし、宣教師と派遣された国がより具体的になったようです。「わたしは○○○行きのチケットで○○○に行ってきたよ。」と報告してくれました。

どの子ども最初は緊張している様子でしたが、すぐに慣れ、3日目には「もう帰るの、もっとここに居たい」「来年も来る！」と、口々に話しています。本当に楽しい時を過ごすことが出来たようです。大勢のスタッフによる、事前の準備と、当日の細やかな配慮あるプログラム運営が、子供達に安心感と開放感を与えてくれたと思います。スタッフの働きに感謝します。

また今回連合から帯広教会に、引率リーダーの交通費補助を頂きました。ありがとうございました。

たことを、いまでもはっきりと覚えています。

高校生になって音楽の道が示され、バプテスマの決心した時、加藤牧師から、幼稚園の両親礼拝の奏楽を頼まれました。初めてピアノを弾いた時、「あなた、ペダルの使い方がきれいなね。」とおっしゃっていただきました。

今ふり返ってみると、どこか良いところを見つけ励ましたいという先生の優しさだったのだと思います。このように先生は教会員一

人一人の能力を引き出し、褒めて励まし育てていく教師でした。そして、本を読み、音楽を聴き、料理や洋裁、和裁、生け花など積極的にチャレンジし、いつも世界に目を向け、ご自身を磨いておられました。必要とされるころには、おしみなく訪問し、その人のために祈り支えることを続けておられました。

大学に入り、念願の聖歌隊に入ってから毎回の練習が楽しみでなりません。特に、先生が自ら用意して下さるコーヒブレイクは、聖歌隊員の心をなごませ、ひとつにするという絶大な効果がありました。その習慣は今でもいろいろな場面で引き継がれています。先生は人を分け隔てなく、心からもてなす人でした。私が初めて宣教師館に行った時、高校生だった私を暖かく迎え入れ、綺麗なガラス器にアイスクリームとクッキーでもてなして下さいました。そこには素敵なナプキンが添えられていて、こんな私を一人前に扱って下さったことが嬉しくて、その経験は私の生活の中に大いに活かされています。



■ 苫小牧教会新会堂献堂式報告

苫小牧教会 田代 仁 ■

2019年5月6日(月)、苫小牧バプテスト・キリスト教会は新会堂献堂式を執り行い、そこに全道から121名の方々が祝福を携えて来て下さいました。説教は奥村敏夫釧路教会牧師、奏楽は森洋子姉(函館美原教会)。当初予定では2018年11月23日に行う予定でしたが、2018年は立て続けに来た台風と、9月6日に発生した地震とその後の大停電によって

野村宏子先生を語る上で忘れられない事は沢山の讃美歌を生み出した詩人であったことです。新生讃美歌には10曲の作詞、6曲の訳詞が掲載されています。中でも「歌え、キリストの愛を」「朝の光の中で」「カルバリの主は」は多くの人々の心に残る讃美歌として歌い継がれています。

フーバー先生を天に送ってからの先生は、ご自身の病と闘いながらの日々でした。「野村宏子は十分に働きました」が口癖で、天国に帰ることを切望しておられました。沢山の事を愛を持ってご指導くださり励まして下さった先生には感謝をしてもしきれないほどです。先生に教わったことを宝とし、天国で再会できることを願いつつ、励みたいと思っております。

「神は神を愛する者、すなわちご計画に従って召された者たちと共に働いて万事を益となるようにして下さいますことを、わたしたちは知っている」ローマ8:28

感謝のうちに。

工期が延び、結果的に竣工引渡しが11月22日となったためのやむを得ない延期でした。それでもこうしてたくさんの方々が出席してくださり、また覚えてお祈りくださったこと、心より感謝いたします。

今回の新会堂建築を通してつくづく思わされたのは、私たちに礼拝の場として会堂が与えられているという事は決して当たり前のことではない、という事です。連合ニュースのバックナンバーを振り返れば、多くは教会組織をしたばかりの10の教会・伝道所の集まりに過ぎない北海道連合諸教会の群れが、自分の教会のことだけでも精一杯であるだろうにもかかわらず、篤い思いと祈りを捧げて産み出した苫小牧教会であることが分かります。きっと、どの教会もそうした先輩たちによって私たちが礼拝する場を与えられてきたのでしょう。

新会堂にしても、苫小牧教会の教会員の皆さんはもちろん、連合諸教会の皆さん、他にもたくさんの兄弟と諸教会が、篤い祈りと

捧げものをもって支え、励ましてくださいました。それがなかったら、この計画はとん挫していたでしょう。こうして建てられた新会堂もまた、これから主を礼拝する場として用いられつづけることを願ってやみません。そして私たちもまた、どこかで新しい挑戦がなされるときに、篤く祈り支える群れとなっていきたいと思っています。感謝と共に…。



-----◇◇◇ 第9回「信徒セミナー」ご案内 ◇◇◇-----

昨年度は「信徒大会」実施に伴い、信徒セミナーを“お休み”にしたので、2年ぶりの信徒セミナー開催となります。昨年度の「信徒大会」の中では「協力伝道会議」が行われ、教会の過去・現在・未来について話し合いました。連合役員会と信徒大会実行委員会のきめ細かい準備のおかげで、私たち北海道連合にとってとても大切な協議がなされました。

そこで、今年度の信徒セミナーではその協議を受けてテーマを設定し、更に議論を深めていきたいと願い、東京地方連合会長の内藤崇氏を講師としてお迎えし、他連合での議論にも耳を傾けながら、わたしたちの置かれた“今”と“これから”について思いを深めたいと思います。どうぞ奮ってご参加ください！

第9回 信徒セミナー

テーマ「わたしたちの現在地」

講師 内藤 崇 氏 (東京地方バプテスト教会連合会長/目白ヶ丘教会員)

日時 2019年10月13日 (日) 19:00 ~ 14日 (月/休) 14:00

会場 札幌教会

参加費 全参加 4,000円 部分参加 2,000円

交通費宿泊補助：一部補助 (参加者によって変動いたします。財政的に参加が困難な教会はご相談下さい)

申込締切 9月23日(月) *後日各教会に申込書を含め、詳細をご案内します

北海道バプテスト研修センター 川内 裕子



北海道バプテスト連合 [協力献金口座]：郵貯 19000-17922911

北海道連合災害対策委員会 (災害対策委員会口座)：郵貯 19000-21316651